

経営比較分析表（令和4年度決算）

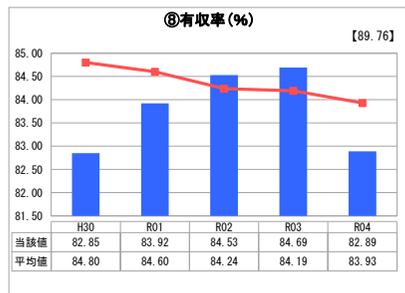
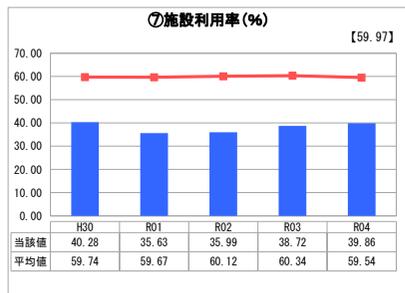
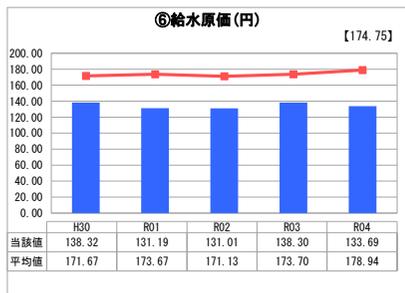
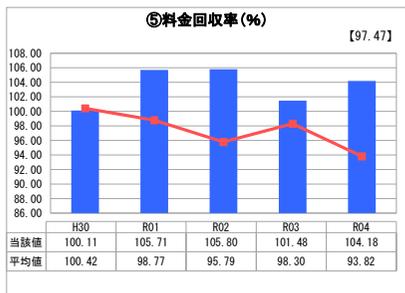
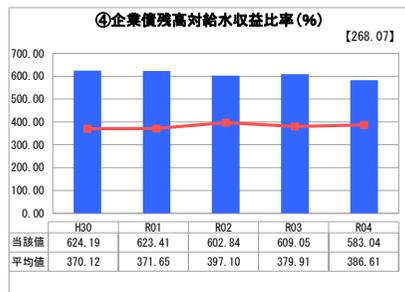
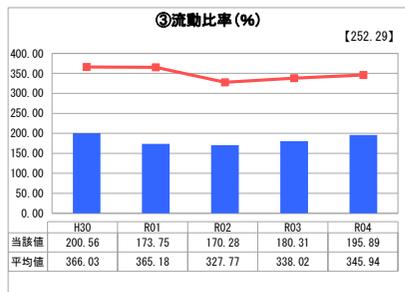
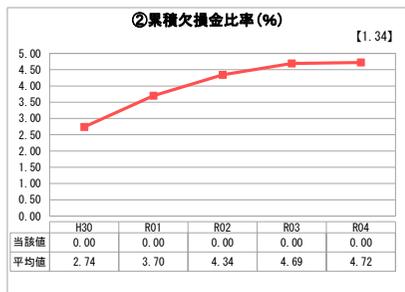
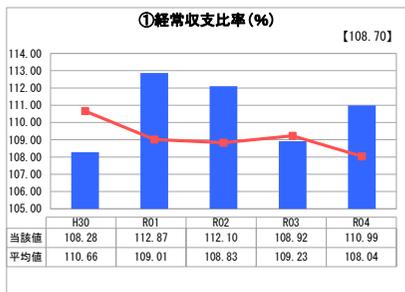
熊本県 菊池市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	水道事業	末端給水事業	A5	非設置
資金不足比率 (%)	自己資本構成比率 (%)	普及率 (%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金 (円)	
-	46.30	73.28	2,780	

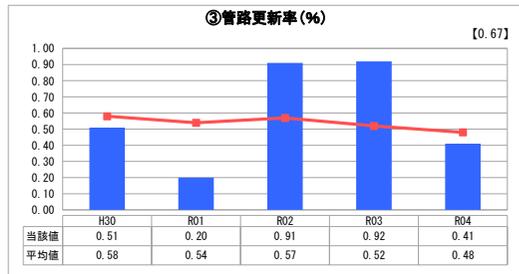
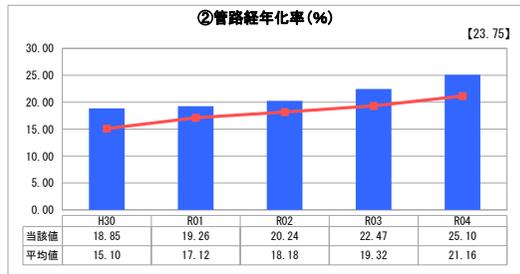
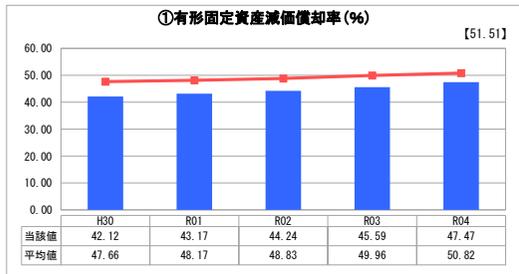
人口 (人)	面積 (km ²)	人口密度 (人/km ²)
47,103	276.85	170.14
現在給水人口 (人)	給水区域面積 (km ²)	給水人口密度 (人/km ²)
34,310	71.96	476.79

グラフ凡例	
■	当該団体値 (当該値)
—	類似団体平均値 (平均値)
【	令和4年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

- ①経常収支比率は、主に資産減耗費や漏水等による修繕費の減が影響し、前年度を上回りました。
- ②累積欠損比率につきましては、現在は累積欠損金は発生していません。
- ③流動比率は、前年度を上回り、必要とされる1年以内に支払うべき債務に対して支払うことができる現金等があることを示す100%以上となっていることから、経営の健全性は概ね保たれている状況といえます。
- ④企業債残高対給水収益比率は、旧簡易水道事業の企業債借入れによるものが影響し、類似団体平均値を大きく超えています。毎年度の企業債借入額がその年度の企業債償還額を上回らない額とするなど、改善を図ります。
- ⑤料金回収率は、供給単価及び給水原価それぞれ減少しましたが、給水原価の減少幅が大きかったため前年度より改善しました。
- ⑥給水原価は、地下水を水源としているため、類似団体平均と比較して低い状況です。
- ⑦施設利用率は、地形などの影響から多数の施設を保有しているため低い状況です。
- ⑧有収率は、漏水調査や早期漏水修繕に取り組みましたが、令和5年1月の警報級の寒波により漏水が多発したことにより、前年度より低下しました。

2. 老朽化の状況について

- ①有形固定資産減価償却率は、若干上昇傾向にありますが、類似団体平均と比較しても同様な状況であり、水道水の安定供給に影響を及ぼす状況ではありません。
- ②管路経年化率は、上昇傾向にあり、類似団体平均を超えている状況です。
- ③管路更新率は、R04年度において水道施設（水源地）の整備を重点的に実施しており、前年度より低下しました。

全体総括

人口減少による有収水量の減少とそれに伴い料金収入が減少していく中、老朽化した水道施設の維持・更新に係る経費の増加等により厳しい事業運営が見込まれます。

今後は、菊池市水道ビジョン（経営戦略）に基づき、適切な維持管理により現有資産を有効に活用します。また、施設更新時にはダウンサイジング等を踏まえながら施設の再構築を図り、施設利用率の向上を目指すとともに、老朽化の進んだ管路を計画的に更新し、さらに有収率の改善を図ることで、持続可能な経営を行っていきます。